



# 徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念  
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

令和6年4月

38号

## 管理者就任のご挨拶

### 徳島市民病院 第5代病院事業管理者 三宅 秀則

平素より、徳島市民病院の運営についてご理解ご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

私は安井夏生氏の後任として、令和6年4月1日に徳島市民病院事業管理者に就任いたしました。市民病院は急性期医療、地域医療、災害時医療を基盤に、「地域周産期母子医療センター」「関節治療センター」「がんセンター」を3本柱として位置づけ、専門医が最先端の医療を提供できる体制を整えております。また、初期臨床研修指定病院として、徳島大学を中心に県内の医療機関と協力して、将来の徳島の医療を担う若い人材を育成することを診療同様、大きな役割と考えています。



病院事業管理者 三宅 秀則

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に感染症第5類指定になり、病院としてはやっと通常の診療が行えるようになってきました。市民病院はコロナ禍の3年間、パンデミック当初より感染患者への対応は公立病院の責務と考え、重点医療機関として新たに感染患者専用の病棟を設けるなど、積極的に役割を担ってきました。特に地域周産期母子医療センターとして妊婦感染者の対応も積極的に行い、コロナ禍での徳島の医療崩壊抑止の一翼を担うことができました。今回のパンデミックを経験し、公立病院としては行き届きにくい医療に対してもしっかりと対応していくことの重要性が改めて痛感されました。また、能登半島地震をみましても、発災時に病院の果たす役割は非常に重要です。将来高い確率で生じると言われている南海トラフ沖地震等、災害時において病院としての機能を維持することは市民病院が地域に果たす使命でもあり、対応できるように日頃から準備を図っていくことも大切です。

一方で、公立病院の経営健全化は非常に重要で当院の喫緊の課題です。本年は2年ごとの診療報酬の改定が、6年に一度の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定となるなか、賃金や物価はますますの上昇が見込まれ、病院経営は非常に厳しくなることが予想されます。このような厳しい医療環境ではありますが、地域の中核病院として住民の皆様に「ここに在って欲しい、在ると安心」と思っただけの病院を目指し、当院の理念である「思いやり・信頼・安心」を職員全員がしっかりと胸に刻み、より信頼してもらえるように病院運営に注力していく所存でありますので、今後とも何卒徳島市民病院をよろしくお願い申し上げます。

病院事業管理者 三宅 秀則

## 薬剤部長就任のご挨拶

4月1日より、薬剤部長を務めさせていただくことになりました、都築 大輔と申します。この責任ある役割を拝命し、身の引き締まる思いであります。

私たちの医療環境は、日々進化し続けています。特に「医師の働き方改革」は、医師だけでなく、私たち薬剤師にとっても大きな影響を与えています。医師から薬剤師へのタスクシフトが進む中、薬剤部としての役割はより一層重要になってきております。私たちは、医療事故の防止と業務改善に努め、高度医療に対応できる専門的知識の習得に励む必要があります。

また、PBPM(Protocol Based Pharmacotherapy Management)の推進は、チーム医療の質を高め、患者さんの安全を守る上で不可欠です。プロトコルに基づいた薬物治療管理を通じて薬剤師としての専門性を発揮し、医師の負担を軽減しながら、患者さんに最適な治療を提供することが私たちの使命です。さらに、医療DX(Digital Transformation)の推進は喫緊の課題であり、私たちの業務も大きく変革する必要があります。ICTを活用した業務の効率化や新たな医療技術の導入は、私たちの業務をよりスムーズにし、患者さんへのサービス向上に直結すると確信しています。これからも、医療DXを積極的に推進し、質の高い医療サービスの提供を目指してまいります。

私は、薬剤部の一員として、そして部長として、これらの改革を支え、皆様と共に成長していくことを誓います。今後ともご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(薬剤部 都築 大輔)



都築 大輔 薬剤部長

## 看護部長就任のご挨拶

令和6年4月1日に看護部長を拝命いたしました、谷崎 宏美です。

徳島市民病院 看護部には、地域の人々が住み慣れた場所での生活を続けていくために、暮らしと医療の両方を支える切れ目のない看護が求められています。しかし、医療・看護を取り巻く環境は非常に厳しく、少子高齢化に伴う入院患者の超高齢化、認知機能低下が疑われる患者の増加や働く人の減少など、課題は山積しています。そのような状況の中で、当院の看護職員が楽しく働き続けられる環境作りは、私の大きな仕事だと思っています。

聖路加国際大学の井部 俊子先生は、次のように書かれていました。「若い看護師達は業務はしているが看護はしていないと口にしている」と。これは、入院してからの情報収集の多さ、記録物や書類の多さからくるものです。いかに業務を効率化し楽しいと感じられるようにしていくか、業務ではなく看護をしていると思えるようになるにはどうすべきかを考えさせられる言葉でした。また、病院経営という観点から「病床稼働率90%以上、救急車受け入れ台数 月300台以上」という目標に向けて看護部ができることは、選んでもらえる病院となるように質の高い看護を提供することであり、今後も専門的知識や技術をもった人材育成に取り組みたいと考えています。

そして、楽しく働き続けられる職場づくりのためには、私自身が楽しく仕事をしていかなければならないと思っています。週末には大好きな温泉でゆったり、ゆったりしながら頑張っていきます。看護部長という重責に微力ではありますが、皆様のお力添えをいただき、精励する所存です。よろしくお願い申し上げます。

(看護部 谷崎 宏美)



谷崎 宏美 看護部長

## 令和6年能登半島地震被災地へJMATとして出動

新年早々に発災した能登半島地震を、みなさんはどこで知りました（見られました）でしょうか。わたしは親戚の家で新年の挨拶も終え、さて自宅へ帰ろうかと算段している時にテレビでテロップが流れました。その後は映し出される情報カメラからの映像をただ食い入るように見ている状態でした。医療従事者として、多くの方が被災地に対し医療支援の機会があれば、少しでも貢献したいと思われたのではないのでしょうか。

今回、1月18日から22日まで5日間の日程で石川県にJMAT（日本医師会災害医療チーム：Japan Medical Association Team）の派遣要請があったことを受け、当院のDMAT（災害派遣医療チーム：Disaster Medical Assistance Team）隊員である小笠原卓（医師）、猪子美由紀（看護師）、斉藤辰彦（薬剤師）、森田敏文・豊田英治（業務調整員）に5名構成での出動命令がありました。1月18日に徳島を出発し、初日の目的地：石川県庁（金沢市）まで9時間ほどの自動車移動です。当初はさらに移動して七尾市を拠点とした被災地での医療活動に入る予定でした。しかし、先発の徳島JMAT第1班からの申し送りを受けた段階で、金沢以南の避難者に対しJMATとして活動する上で最も重要な、活動の指揮命令を出す本部組織が全く構築されていないことが分かりました。そのため、我々の任務は本部の立ち上げ運営となりました。

1月19日からは石川県庁内でのJMAT金沢以南支部内での本部活動となり、各地から参集してきたJMAT部隊への指示のほか、医療支援が継続性を持ったものとなるように、日報の定型化など本部としての活動の基盤となるものを作りあげることに注力しました。これに加え、本部活動中に近隣スポーツセンターで展開されている1.5次避難所への視察を行いました。本来避難にあたっては、1次避難所からホテル等の2次避難所へと移行していくのですが、1.5次避難所は介護などを要するため安易に移動できない方々が対象となっています。言わば介護施設をまるごと仮設したような状況であり、これは被災地の高齢化率が高いほど起こりうる状況です。徳島県においても、介護を必要とする避難者があふれる同様のことが起こるのではないかと危惧されました。

課せられた任務を無事に終え第3班へ引き継ぎした後、1月22日に現地を出発しその晩に徳島へ帰って参りました。徳島市民病院に到着の際には、みなさまのお出迎えもいただき、出発による業務調整をしていただいたことも含め、改めて感謝申し上げます。最後になりますが、1年のなかで人手が最も少なくなる日に災害が起こった際に、医療機関ではどれくらいの人数が参集できるのか、活動できるのかを少しでもイメージいただければ幸いです。

(JMAT隊員 小笠原卓)



被災地に向けて職員5名が出発



JMAT金沢以南 保健医療調整支部にて  
JMAT徳島第2班と引き継ぎをする第3班、  
石川県医師会長、JMAT岡山の皆さんと



被害の大きかった珠洲市内



金沢市内も道路が液状化



1.5次避難所の視察中

# 新任医師、臨床研修医ご紹介

徳島市病院局は4月1日付で人事異動を発令しました。当院は医師7名を採用。臨床研修医5名を含め、12名が着任しています。医師の主な昇格は以下のとおりです。(旧任：新任の順に記載)  
 ▽外科 小笠原 卓主任医長 兼 がんセンター副センター長：診療部長兼がんセンター副センター長  
 ▽内科 藤井 祥平医員：医長、八木 麻衣医員：医長  
 当院は今後も地域の中核病院としての役割を果たしてまいります。ご協力の程、何卒宜しくお願いたします。(広報管理室)



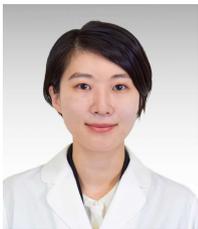
整形外科 医長  
 百田 佳織

【専門分野】 整形外科一般



産婦人科 医長  
 片山 幸子

産婦人科



内科 医員  
 寺澤 翠  
 呼吸器内科



外科 医員  
 山崎 寛門  
 外科



麻酔科 医員  
 岩朝 一馬  
 麻酔科



麻酔科 医員  
 塩崎 友里子  
 麻酔科



病理診断科 医員  
 富田 満  
 病理学



臨床研修医 (1年次)  
 杉本 花奈乃



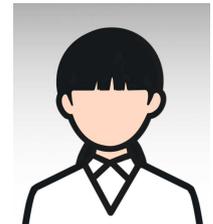
臨床研修医 (1年次)  
 加藤 佑美



臨床研修医 (1年次)  
 森 威徳



臨床研修医 (1年次)  
 新居 拓朗



臨床研修医 (1年次)  
 本田 萌

## 当院ホームページがリニューアル

市民病院のホームページがリニューアルされたことに伴い、URLが変更となりました。ブックマーク等に登録されている方は、お手数ですが以下のURLにご変更をお願いします。

【 <https://www.city-tokushima-hosp.jp/> 】

右に掲載されているQRコードを読み取り、新ページへ移動していただくこともできます。



「思いやり、信頼、安心」  
 当院の理念が中央に



各項目に繋がるボタンは大きく、分かりやすく



病院紹介のページもシンプルかつ見やすく